

2020年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 2 科 目 名 : 神経内科学

担当講師名 : 非常勤講師

単 位 : 2 単位 教育時間 : 30 時間

教育目標 (到達目標) : 講義は3つの柱 ①解剖と機能 ②症候 ③疾患 以上を関連、包括的に理解することを目標とする。

【講義概要】

神経内科の領域で十分な理解を必要とする中枢神経系の解剖と機能について詳述した後に、疾患別の各論に入る。症状・症候が似通った異なる疾患の鑑別についても学習する。

回数	項 目	内 容
1	導入と総論	中枢神経系の解剖学と生理、機能①
2		中枢神経系の解剖学と生理、機能②
3		中枢神経系の解剖学と生理、機能③
4		中枢神経系の解剖学と生理、機能④
5		神経症候学と所見の特徴①
6		神経症候学と所見の特徴②
7		神経症候学と所見の特徴③
8	疾患各論	脳血管障害の病態と所見
9		錐体外路疾患
10		認知症
11		脳腫瘍・外傷性脳損傷・てんかん
12		神経変性疾患・脱髄疾患
13		脊髄疾患・末梢神経障害
14		筋疾患・感染症・合併症
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

講義による授業を中心に行う。

基本的に教科書の目次順で進行するので必ず教科書を持ってくること。

2020年度 教育計画（作業療法学科）

学 年： 2 科 目 名： 整形外科学

担当講師名： 非常勤講師

単 位： 3 単位 教育時間： 45 時間

教育目標（到達目標）： 整形外科疾患の原因、症状、治療について理解する。

【講義概要】

整形外科疾患の中でも作業療法の対象となることが多い疾患の原因・症状・治療過程を学んだ後、各関節や骨の部位に視点を当てて、各論を学ぶ。

回数	項 目	内 容
1	運動器の構造と機能	骨、筋肉、関節の構造
2	〃	上肢、下肢、脊椎の構造
3	整形外科疾患総論	骨、関節の感染症、慢性関節疾患
4	〃	代謝性骨疾患、関節リウマチ
5	〃	骨腫瘍
6	〃	運動器の外傷
7	整形外科各論	肩関節、上腕
8	〃	〃
9	〃	肘関節、前腕
10	〃	〃
11	〃	手関節、手指
12	〃	〃
13	〃	頸椎
14	〃	〃
15	〃	胸椎
16	〃	腰椎
17	〃	胸郭
18	〃	骨盤、脊柱変形
19	〃	股関節、大腿
20	〃	膝関節、下腿
21	〃	〃
22	〃	足関節、足
23	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

講義を中心とした授業を行う。

プロジェクターの準備をしてください。

2020年度 教育計画（作業療法学科）

学 年： 2 科 目 名： 発達障害OT学

担当講師名： 非常勤講師

単 位： 2 単 位 教 育 時 間： 4 5 時 間

教育目標（到達目標）： 1. 発達障害に対する作業療法の理論と実際を、科学的な仮説と結びつけて理解する。

2. 発達障害領域の実践に必要な知識・視点について理解し、興味と意欲を持つ。

【講義概要】

各回の詳細は下記の表のとおり。

主に乳児期から児童期の発達障害を扱う。

回数	項 目	内 容
1	小児のOT概論1	LDの症例を通して、発達障害作業療法における障害、評価、治療の概要を知る。子どもの目的、セラピストの目的の両立の大切さを知る。
2	小児のOT概論2	行動の神経学的メカニズム、動機づけられた行動に対する認知論的アプローチを理解する。
3	A D L	「やっぱりOT」と言われるような基本動作(はし、はさみ、更衣、トイレトレーニング等)について演習しながら分析する。
4	自閉症スペクトラム 1	発達障害領域の対象で最も主要な自閉症スペクトラム障害について、基本知識と、まず典型例を理解する。
5	自閉症スペクトラム 2	自閉症スペクトラム障害の早期療育の実際、OTが治療対象とする感覚過敏等の理解と対応を知る。
6	注意欠陥/多動性障害	定義、状態像を学び、評価、治療、療育教育等のかかわりの全体像を理解する。
7	発達性協調運動障害	OTの主要な対象である不器用児について、理解と対応を知る。
8	心と行動の発達1	内的動機づけ、有能感と自己決定、対象関係、二者関係等の適応行動の発達について理解し、治療的対応を知る。
9	心と行動の発達2	集団関係の発達を、ADHD児のグループセラピーの経過を通して理解し、治療的対応を知る。
10	中枢性運動障害1	脳性マヒ等の定義、中枢神経性運動障害の特徴を理解し、評価、治療、療育、教育等の基本について理解する。
11	中枢性運動障害2	重症心身障害等の定義、状態像を学び、評価、治療、療育、教育等のかかわりの全体像を理解する。
12	神経筋疾患、てんかん、その他	進行性筋ジストロフィー症、てんかん、高次脳機能障害等の定義、状態像を学び、評価、治療、療育、教育等のかかわりの全体像を理解する。
13	視覚・視知覚	視覚の発達、視知覚の発達と、評価・検査・指導について理解する。
14	運動の発達	反射・反応の発達、運動発達の里程と視点を、中枢神経性運動障害と関連付けて理解する。
15	発達検査、知能検査	日本版デンバー発達スクリーニングテスト、知能検査、発達検査、グッドイナフ人物画知能検査等の概要を知る。
16	手の機能と発達	手の機能と発達
17	摂食の評価と演習	摂食機能の評価と対応について、演習を通して理解する。
18	事例検討1自閉症スペクトラム	実際の事例の経過を通して、評価、問題点の抽出、治療プログラム、再評価という一連の作業療法過程を知り、観察、記録、問題点の分析、臨床的思考方法を学ぶ
19	事例検討2 自閉症スペクトラム	
20	事例検討3 運動発達障害	
21	地域における発達支援	早期療育支援、地域連携、特別支援教育、社会資源など、発達障害OTの関わり方のいろいろと福祉制度を知る。
22	障害の受容と告知	障害児の保護者の受容過程を理解し、保護者支援を考えることができる。また本人への障害告知のあり方を考える。
23	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

講義と症例検討(演習)による授業を行う。

2020年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 2 科 目 名 : 作業治療学(作業治療学)

担当講師名 : 齋藤 勝

単 位 : 2 単位 教育時間 : 30 時間

教育目標 (到達目標) :

作業療法における作業の適用のしかたを学び、作業の分析を通して評価学や治療学の基礎とする。

【講義概要】

道具や物を扱う「ヒト」の脳・手・心理の生理機能を学び、それらが障害された際に、どのような作業を用いて治療にあたるべきか、ヒトと作業の両側からマッチングの重要性を学ぶ。

回数	項 目	内 容
1	概要説明、作業と治療①	概要、作業療法の成り立ちについて概観する。
2	作業と治療②	作業療法士に必要なコミュニケーションスキルについて学ぶ。
3	作業と治療③	ものづくりから活動分析を通して作業療法体験につなぐ。
4	作業と運動生理機能①	運動学・神経生理学の視点から作業療法を考える。
5	作業と運動生理機能②	作業が運動器に作用する機序について学ぶ。
6	作業と心理①	対象者が自発的な活動を行い継続する仕組み、心理が相互に作用する機序
7	作業と心理②	対象者の自発的な行動を誘発し、継続できるための支援。行動学習の理論
8	ライフステージと作業療法①	「発達期と作業」作業と人間発達の関係について理解する。
9	ライフステージと作業療法②	「青年期と作業」作業と人間関係の構築について理解する。
10	ライフステージと作業療法③	「高齢期と作業」高齢期にある役割と作業、心理について理解する。
11	活動分析	アクティビティや事例を通して概観する。
12	作業分析	アクティビティや事例を通して概観する。
13	作業・作業活動をもちいる①	作業をどのようにもちいるか、もちいられる過程、学習条件を学ぶ。
14	作業・作業活動をもちいる②	伝えるコツ、関わりのコツを学び、考える。
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員(作業療法士/精神障害領域の実務経験)

講義と作業分析の2本柱で授業を行う。

演習時には、既習の「基礎作業学実習Ⅰ・Ⅱ」のノートを参考にすること。

2020年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 2 科 目 名 : 身体障害評価学Ⅱ(身体障害評価学Ⅱ)

担当講師名 : 中村 正行

単 位 : 1 単位 教育時間 : 30 時間

教育目標 (到達目標) : 身体障害領域における基本的な検査技術を理解し修得する。

【講義概要】

徒手筋力検査法 (MMT) を学ぶ。教員によるデモンストレーションの後、学生同士で当該テストを体験する。筋の起始・停止・支配神経と関節運動を結びつけた上で、検査手技を習得する。

回数	項 目	内 容
1	MMT 概論	MMTの目的、方法、注意点等
2	肩甲骨周囲筋のMMT	肩甲骨周囲筋のMMTの概要、デモンストレーション、実技
3	肩関節筋のMMT	肩関節筋のMMTの概要、デモンストレーション、実技
4		
5	肘関節・前腕・手関節筋のMMT	肘関節・前腕・手関節筋のMMTの概要、デモンストレーション、実技
6	2～5指の筋のMMT	2～5指の筋のMMTの概要、デモンストレーション、実技
7	母指筋のMMT	母指筋のMMTの概要、デモンストレーション、実技
8	上肢筋MMTのまとめ	上肢筋MMT実技の総復習
9	股関節筋のMMT	股関節筋のMMTの概要、デモンストレーション、実技
10		
11	膝関節・足関節・足部筋のMMT	膝関節・足関節・足部筋のMMTの概要、デモンストレーション、実技
12	頸部・体幹筋のMMT	頸部・体幹筋のMMTの概要、デモンストレーション、実技
13	総括	MMT実技の総復習
14		
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員(作業療法士/身体障害領域の実務経験)

実習をメインとする授業を行うので、動きやすい服装で臨むこと。

学生同士2人組になって実技を行うが、時折、相手を変えて検査手技を経験することが望ましい。

2020年度 教育計画（作業療法学科）

学 年： 2 科 目 名： 身体障害評価学Ⅲ(身体障害評価学Ⅲ) 担当講師名： 中村 正行

単 位： 1 単位 教育時間： 30 時間

教育目標（到達目標）： 身体障害領域における基本的な検査技術を理解し修得する。

【講義概要】

面接・観察・検査測定の実施と記録の方法を学ぶ。特に検査については、何を知るためにどのような

検査の目的・対象疾患についても学習する。

回数	項 目	内 容
1	面接	面接の目的、方法等、実技
2		
3	観察	関節の目的、方法等、実技
4		
5	感覚検査	感覚検査の目的、方法等、実技
6		
7	脳神経検査・姿勢反射検査	脳神経検査、姿勢反射検査の目的、方法等
8	腱反射検査	腱反射検査の目的、方法等、実技
9	握力・ピンチ力検査	握力・ピンチ力検査の目的、方法等、実技
10	筋緊張検査	筋緊張検査の目的、方法等、実技
11	上肢機能検査	上肢機能検査（STEF、MFT）の目的、方法等、実技
12		
13		
14		
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員（作業療法士/身体障害領域の実務経験）

学生同士で検査を体験する形式の授業を行う。

必要に応じて、動きやすい服装などの工夫をすること。

2020年度 教育計画（作業療法学科）

学 年： 2 科 目 名： 身体障害評価学Ⅳ(身体障害評価学Ⅳ) 担当講師名： 中村 正行

単 位： 1 単位 教育時間： 30 時間

教育目標（到達目標）： 評価学Ⅰ～Ⅲで学んだ内容の理解を深める。

【講義概要】

これまでに学んだ評価技術を用いて、脳血管障害片麻痺の在宅生活者を対象に、実際の評価を行う。

評価計画の立案・評価の実施・レポート作成まで、一連の流れを体験する。

回数	項 目	内 容
1	画像評価	脳のCTとMRIの診方
2		
3	脳血管障害への評価の実際	評価項目と評価手順
4		バイタルサインの確認、スクリーニング検査
5		運動麻痺・痙縮の評価①
6		運動麻痺・痙縮の評価②
7		総合評価（FMA, SIAS）
8		総合的な運動機能評価（実技）
9		総合的な運動機能評価（実技）
10	評価計画の立て方、検査計画作	評価計画立案の概要、特別講義に向けて検査計画の立案実習
11	特別講義	身体障害者の方へのROM検査等の実施と検査結果の記録等
12		
13	検査計画見直し	特別講義で立案した検査計画の見直し、修正
14	検査結果分析	特別講義で実施した検査の結果に対する分析
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA（優）、70点以上80点未満をB（良）、60点以上70点未満をC（可）とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員（作業療法士/身体障害領域の実務経験）

主にグループワークによる実習を行う。

脳血管障害片麻痺の在宅生活者を招き、特別講師（被検査者）として協力していただく。

2020年度 教育計画（作業療法学科）

学 年： 2 科 目 名： 精神科作業療法学Ⅱ(精神科OT学Ⅱ)

担当講師名： 齋藤 勝

単 位： 1 単位 教育時間： 30 時間

教育目標（到達目標）： 精神科作業療法において、臨床につながる評価の視点を養う。

【講義概要】

精神科領域で用いられる作業療法評価を学習する。評価は観察・面接・検査測定と分類されるが、各種検査を紹介するなかで、それらの内容に「観察」が含まれることも合わせて学ぶ。

回数	項 目	内 容
1	概要	精神科OTにおける評価の概要・流れについて理解する。
2	情報収集	カルテや他職種からの情報収集について。
3	観察①	観察の重要性を理解し、客観的に記録することへつなげる。
4	観察②	客観的な記録について、個人情報保護について学ぶ。
5	面接法①	面接における意義・目的を理解する。
6	面接法②	様々な形態の面接を体験し理解を深める。
7	検査法①	評価における検査の意義・目的を理解する。
8	検査法②	興味関心チェックリスト ・ HTPテスト
9	集団評価	ひと・集団・場について理解し、集団評価の意義・目的を学ぶ。
10	日常生活行動評価	対象者の日常生活行動を評価する意義・目的を学ぶ。
11	職業関連評価	精神科OTにおける職業関連評価の意義・目的を学ぶ。
12	精神科医療での評価尺度	社会機能評価、COPM、Rehab
13	評価からのまとめ①（症例）	様々な情報をまとめ全体像を把握し目標設定、プログラム立案へつなげる
14	評価からのまとめ②（症例）	様々な情報をまとめ全体像を把握し目標設定、プログラム立案へつなげる
15	まとめ	総合確認
16		

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員（作業療法士/精神障害領域の実務経験）

講義を中心とした授業形式であるが、プライバシー保護の及ぶ範囲で評価の演習を行う。

2020年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 2 科 目 名 : OT治療学2(基礎作業学実習Ⅱ)

担当講師名 : 奈良 研治

単 位 : 2 単位 教育時間 : 45 時間

教育目標 (到達目標) : 基礎的な作業を理解する。基礎的な作業分析を理解する。

臨床場面での治療的行為の基礎となる技能の習得。

【講義概要】

実際にアクティビティを実施することにより、その特性や段階づけも含めて工程を学ぶ。

材料の買い出し・活動分析・レポート作成を行い、臨床的にアクティビティを導入する際の一助とする。

回数	項 目	内 容
1	籐細工	作業の特性と工程・製作
2	籐細工	製作
3	籐細工	製作
4	籐細工	製作
5	籐細工	製作
6	陶芸	作業の特性と工程・用具道具の使用方法
7	陶芸	粘土作り・荒練り・菊練り
8	陶芸	製作
9	陶芸	施釉
10	革細工	作業の特性と工程・製作
11	革細工	製作
12	革細工	製作
13	革細工	製作
14	革細工	製作
15	革細工	製作
16	機織り	作業の特性と工程・製作
17	機織り	製作
18	機織り	製作
19	アクティビティ検討	グループワーク・レポート課題
20	アクティビティ検討	グループワーク・レポート課題
21	グループでアクティビティ	グループワーク
22	グループでアクティビティ	グループワーク
23	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員(作業療法士/精神障害領域の実務経験)

各アクティビティの工程を説明した後、実習を行う。

適宜、ノートをとり、作業中に気づいたことを記録しておくこと。授業中にフィードバックします。

2020年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 2 科 目 名 : OT治療学3(高次脳機能障害OT学)

担当講師名 : 非常勤講師

単 位 : 2 単 位 教育時間 : 30 時間

教育目標 (到達目標) : 高次脳機能障害の対象者に対し評価介入の指標が各自見出せること。

対象者像をつかむこと。

【講義概要】

高次脳機能障害を、学生が理解しやすいように、障害ごとに症状と評価・治療を続けて学ぶ。

授業期間の後半には、実際に各検査法の演習を実施して学習する。

回数	項 目	内 容
1	高次脳機能障害概論	高次脳機能障害とは
2	評価について	高次脳機能の評価の特性
3	画像の診方、面接・検査、観察	責任病巣・評価の基本
4	意識障害の評価と治療	症状・評価・治療
5	注意障害の評価と治療	症状・評価・治療
6	半側空間無視の評価と治療	症状・評価・治療
7	記憶 //	症状・評価・治療
8	失認 //	症状・評価・治療
9	失行 //	症状・評価・治療
10	スクリーンングと社会的行動障害	症状・評価・治療
11	遂行機能と言語障害	症状・評価・治療
12	検査各論	グループワーク①
13	//	グループワーク②
14	//	グループワーク③
15	まとめ	実技実習のまとめと講義全体の振り返り

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

授業期間の前半は講義中心で行い、後半は各種検査のグループワークを取り入れる。

2020年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 2 科 目 名 : OT治療学5(ADL実習)

担当講師名 : 奈良 研治

単 位 : 1 単位 教育時間 : 30 時間

教育目標 (到達目標) : ADLで学んだこと基礎に、福祉用具、IADLについて学習する。また、基本動作・ADL動作シーティングなど実技を体験し臨床で必要な技術を習得する。

【講義概要】

作業療法対象者の生活全体にアプローチをするには、ADLだけでなくIADLも重要である。この講義では、在宅生活においてニーズの高い「調理」と「排痰・吸引」も含めて、ADLの実際を学ぶ。

回数	項 目	内 容
1	福祉用具総論	福祉用具の定義と歴史、作業療法とATの関係を理解する。
2	ベッド、ベッド周辺実技	電動ギャッチベッド(機能と構造)、使用方法を理解する。
3	車いす、シーティング	車いす構造(スタンダード型・モジュール型、ティルトクライニング型)を理解する。
4	車いす、シーティング	椅子座位姿勢評価マット評価・ハンドリング評価の実施。
5	基本動作	実技:起居動作(寝返り・起き上がりなど)の動作分析を理解する。
6	基本動作	実技:床上動作・移乗動作(トランスファーボード)の動作分析を理解する。
7	ADL動作	更衣、入浴・トイレ(シュミレーター使用)動作分析を理解する。
8	ADL動作	〃
9	生活行為向上マネジメント	生活行為向上マネジメントの概要を理解する。
10	生活行為向上マネジメント	事例をアセスメント演習シート
11	排痰・吸引	標準予防策、吸引(気管、鼻腔、口腔)実施までの流れを理解する。
12	調理実習計画・買い出し	調理実習計画・買い物動作(身体的側面・精神的側面)を理解する。
13	調理実習	調理動作(準備・調理・食事・片づけなど)を体験する。
14	調理実習	〃
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員(作業療法士/高齢期障害および身体障害領域の実務経験)

全日程において実習形式の授業を行う。

動きやすい服装で授業に臨むこと。

2020年度 教育計画（作業療法学科）

学 年： 2 科 目 名： OT治療学6(身体障害治療学Ⅰ)

担当講師名： 板倉 麻紀

単 位： 2 単 位 教育時間： 30 時間

教育目標（到達目標）： 脳卒中を除くさまざまな身体障害の障害像を理解し、治療に際しての観点・考え方を

明らかにし、治療プログラムの立案ができるようになる。リウマチ、脊髄損傷、末梢神経損傷、熱傷を中心に。

【講義概要】

疾患ごとの病期や治癒過程における作業療法士の役割を学ぶ。これまでに学習してきた作業療法の技術が、どの場面で使われるのか、典型例から汎化する流れで説明する。

回数	項 目	内 容
1	導入	評価から治療へ、問題点と目標の考え方
2	治療の枠組み	身障領域のアプローチ方法・ICF
3	障害別作業療法（関節リウマチ）	リウマチ治療の4本柱を学ぶ。
4	障害別作業療法（関節リウマチ）	急性期の患者教育と関節保護法を学ぶ。
5	障害別作業療法（脊髄損傷）	脊髄の構造・機能を学び、脊髄損傷の主症状と二次症状を学ぶ。
6	障害別作業療法（脊髄損傷）	脊髄損傷に特化した検査法（ASIA）を学び、脊髄損傷の分類を知る。
7	障害別作業療法（脊髄損傷）	頸髄損傷者の機能残存筋ごとにADL・IADL・社会参加を学ぶ。C4C5。
8	障害別作業療法（脊髄損傷）	頸髄損傷者の機能残存筋ごとにADL・IADL・社会参加を学ぶ。C6C7。
9	障害別作業療法（末梢神経損傷）	腕神経叢と上肢・手指の機能・神経誘発検査を学ぶ。
10	障害別作業療法（末梢神経損傷）	橈骨神経・尺骨神経・正中神経の損傷と治療過程を学ぶ。
11	障害別作業療法（末梢神経損傷）	知覚再教育・脱感作のしくみと方法を学ぶ。
12	障害別作業療法（熱傷）	熱傷の重症度分類・治癒過程の良肢位保持・スプリント療法について学ぶ。
13	障害別作業療法（骨折）	橈骨遠位端骨折を中心に、上肢の特異的な骨折の特徴を学ぶ。
14	障害別作業療法（骨折）	上肢・下肢の骨折とADL・荷重について学ぶ。
15	まとめ	総合確認
16	テスト	

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA（優）、70点以上80点未満をB（良）、60点以上70点未満をC（可）とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員（作業療法士/身体障害領域の実務経験）
講義を中心とした形式で授業を行う。
教科書の他に参考資料（プリント）を配布する。

2020年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 2 科 目 名 : OT治療学7(身体障害治療学Ⅱ)

担当講師名 : 板倉 麻紀

単 位 : 2 単 位 教 育 時 間 : 30 時 間

教育目標 (到達目標) : 脳卒中を除くさまざまな身体障害の障害像を理解し、治療に際しての観点・考え方を

明らかにし、治療プログラムの立案ができるようになる。神経疾患・筋疾患については演習を行う。

【講義概要】

疾患ごとの病期や治癒過程における作業療法士の役割を学ぶ。

神経・筋疾患についてはグループワークを行い、具体的な症例対応についてディスカッションする。

回数	項 目	内 容
1	内部障害 (リスク管理)	治療プログラム継続の可否についての指標を学習する。
2	内部障害 (糖尿病)	糖尿病とその3大合併症へのアプローチを学ぶ。
3	内部障害 (腎疾患)	慢性腎不全者のADLと社会生活について学ぶ。
4	内部障害 (呼吸器疾患)	在宅酸素療法における作業療法士の役割とADLの工夫を学ぶ。
5	内部障害 (心疾患)	心電図のみかたを学習する。
6	内部障害 (心疾患)	心疾患を合併する運動器障害患者への対応を学ぶ。
7	グループワーク	神経筋疾患 (大別して9つ) をグループごとに調べてまとめ、発表用資料・提出用資料をグループごとに作成する。グループ分けなどの詳細は第5回授業時にプリントを配布して公表する。
8	グループワーク	
9	グループワーク	
10	グループワーク	
11	グループ発表	各グループ持ち時間75分間で発表を行う。発表の順番などの詳細は第5回授業時にプリントを配布して公表する。
12	グループ発表	
13	グループ発表	
14	グループ発表	
15	まとめ	総合確認
16	テスト	筆記テストとグループ発表 (レポート) を総合的に評価する

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA (優)、70点以上80点未満をB (良)、60点以上70点未満をC (可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員 (作業療法士/身体障害領域の実務経験)
 内部障害については講義中心、神経・筋疾患はグループワークによる演習を行う。

2020年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 2 科 目 名 : OT治療学8(精神科OT学Ⅲ)

担当講師名 : 齋藤 勝

単 位 : 2 単位 教育時間 : 30 時間

教育目標 (到達目標) :

精神保健医療福祉の動向や、疾患の回復段階に沿った関わりや治療を理解し地域移行、定着の重要性を把握する。

【講義概要】

精神科医療の急性期から維持期・地域への流れを学び、それぞれの病期における作業療法士の関わりを学ぶ。

回数	項 目	内 容
1	精神保健医療福祉の動向①	近年の精神保健医療福祉の動向を理解する。
2	精神保健医療福祉の動向②	早期退院・退院支援と地域生活支援を学ぶ
3	作業療法実践①	対象者の個別性と主体性を引き出す重要性を学ぶ
4	作業療法実践②	疾病と回復過程を理解し回復期ごとのポイントを整理する。
5	作業療法実践③	精神科OTにおける生活支援の視点を学ぶ。
6	急性期作業療法①	急性期 (要安静期・亜急性期) の状態像から作業療法を考える。
7	急性期作業療法②	回復状態に合わせた作業療法を考える。
8	急性期作業療法③	急性期や慢性期の心理教育について理解する。
9	急性期作業療法④	精神科医療における連携、家族支援について学ぶ。
10	退院支援の考え方①	退院への関わりについて、状態像について疾患の特徴などから考える。
11	退院支援の考え方②	退院支援における留意点、退院促進、支援の実際を学ぶ。
12	地域生活支援のあり方と実際①	再発・再燃予防の重要性を理解する。
13	地域生活支援のあり方と実際②	地域における社会資源、外来作業療法、地域家族支援を理解する。
14	地域生活支援のあり方と実際③	地域におけるデイケア、訪問、就労支援、社会復帰施設を理解する。
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員 (作業療法士/精神障害領域の実務経験)

講義中心の授業形式で行う。

パソコンプロジェクターの準備をすること。

2020年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 2 科 目 名 : OT治療学9(精神科OT学IV)

担当講師名 : 齋藤 勝

単 位 : 2 単 位 教 育 時 間 : 3 0 時 間

教育目標 (到達目標) : 精神科OTにおける基本的な流れを再確認し、各疾患ごとの特徴や症例をもとに評価や治療について学ぶ

【講義概要】

これまでの精神科関連授業の内容を元に、各疾患の症状・病期に合わせた作業療法士の関わりを学ぶ。

疾患別の精神科作業療法という枠組みで学習を進める。

回数	項 目	内 容
1	精神科医療について	精神科評価について振り返りながら精神科医療について確認する。
2	各疾患の理解と作業療法展開①	統合失調症の理解と作業療法について考える。(事例)
3	各疾患の理解と作業療法展開②	統合失調症の理解と作業療法について考える。(事例)
4	各疾患の理解と作業療法展開③	統合失調症の理解と作業療法について考える。(事例)
5	各疾患の理解と作業療法展開④	気分障害の理解と作業療法について考える。(事例)
6	各疾患の理解と作業療法展開⑤	神経症の理解と作業療法について考える。(事例)
7	各疾患の理解と作業療法展開⑥	神経症の理解と作業療法について考える。(事例)
8	各疾患の理解と作業療法展開⑦	摂食障害の理解と作業療法について考える。(事例)
9	各疾患の理解と作業療法展開⑧	依存症候群の理解と作業療法について考える。(事例)
10	各疾患の理解と作業療法展開⑨	依存症候群の理解と作業療法について考える。(事例)
11	各疾患の理解と作業療法展開⑩	パーソナリティ障害の理解と作業療法について考える。(事例)
12	各疾患の理解と作業療法展開⑪	パーソナリティ障害の理解と作業療法について考える。(事例)
13	各疾患の理解と作業療法展開⑫	認知症の理解と作業療法について考える。(事例)
14	新しい精神科医療の枠組みと作業療法	地域生活支援と作業療法、医療観察制度
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員(作業療法士/精神障害領域の実務経験)

講義中心の授業形式で行う。

パソコンプロジェクターの準備をすること。

2020年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 2 科 目 名 : OT治療学10(高齢期OT学)

担当講師名 : 非常勤講師

単 位 : 2 単位 教育時間 : 30 時間

教育目標 (到達目標) : 高齢者に起きる様々な変化を理解し、適切な評価について学び、高齢者作業療法の視点を理解する。

【講義概要】

高齢期に起こりやすい生理的变化や生じやすい障害について学び、症例検討演習を通じて、臨床的に求められる作業療法士の役割・関わり方を身につける。

回数	項 目	内 容
1	オリエンテーション	授業予定と高齢者OT学の概略について説明する
2	高齢社会と課題	高齢化の進展と社会制度について理解する
3	高齢期の特徴①	4つの喪失、老人に伴う全身変化、循環機能・呼吸機能の変化について理解する
4	高齢期の特徴②	内分泌・腎・消化機能、筋・体温調節・睡眠の変化について理解する
5	高齢期におこりやすい症候	廃用症候群、寝たきり・閉じこもり、低栄養、OA、脊柱の変化について理解する
6	高齢期OTの評価	評価項目、過程で留意すること、リスク管理について理解する
7	高齢期OTの実践	高齢者の目標、治療(援助)、計画、実施について理解する
8	病期に応じた治療(援助)	急性期、回復期、維持期(生活期)におけるOTについて理解する
9	認知症	認知症の原因、評価、OTについて理解する
10	虚弱高齢者	虚弱高齢者の評価、OTについて理解する
11	症例グループ討議	症例の評価、治療(援助)目標、計画の検討を学ぶ
12	症例グループ討議	症例の評価、治療(援助)目標、計画の検討を学ぶ
13	症例グループ討議	症例の評価、治療(援助)目標、計画の検討を学ぶ
14	グループレポート発表	症例検討したグループ発表
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

講義を中心とした授業形式で行う。

期間の後半には、症例検討演習を行う。

2020年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 2 科 目 名 : OT治療学12(中枢治療学)

担当講師名 : 笹野 直人

単 位 : 1 単位 教育時間 : 30 時間

教育目標 (到達目標) : 脳卒中を中心とした脳血管障害のリハビリテーションについて、評価・治療の基本的内
 を理解し、修得する。

【講義概要】

脳血管病変の病理を理解した上で、特徴的な症状や脳卒中に特化した評価手技を学ぶ。

二次的に生じるさまざまな障害への対応も含めて、治療方法の大枠を学習する。

回数	項 目	内 容
1	解剖生理学の知識	脳卒中に関わる基本的な解剖・生理
2	解剖生理学の知識	脳卒中に関わる基本的な解剖・生理
3	脳卒中の病態と治療	脳卒中の病態、病型、疾患の特徴、症状、治療
4	評価	評価項目、問題点、目標、治療計画立案等
5	筋緊張と反射	筋緊張の異常、筋緊張の検査 (MAS等)、深部腱反射、病的反射等
6	運動麻痺	上位運動ニューロン障害と下位運動ニューロン障害、共同運動パターン等
7	片麻痺機能検査	Brunnstrom stage、12段階片麻痺機能テスト、FMA、SIAS等
8	脳の可塑性	運動麻痺回復の機序
9	治療(1)	ポジショニング、基本動作 (寝返り、起き上がり) 等
10	治療(2)	基本動作 (座位、立ち上がり、立位)
11	治療(3)	上肢の治療 (上肢治療の特異性、上肢治療の実際)
12	治療(4)	上肢の治療 (上肢治療の特異性、上肢治療の実際)
13	治療(5)	肩の問題 (亜脱臼、肩の痛み、肩手症候群等)
14	予後予測	上肢機能、歩行、ADL等についての予後予測
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満を
 C(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員 (作業療法士/身体障害領域)

主に実技・実習を中心とした授業形式で行う。

動きやすい服装で臨むこと。

2020年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 2 科 目 名 : 職業関連活動

担当講師名 : 非常勤講師

単 位 : 2 単位 教育時間 : 30 時間

教育目標 (到達目標) : 精神障害リハビリテーションにおける「職業関連活動」の概要を理解する。

【講義概要】

地域で生活する精神障害者の就労支援の実例や、職業前評価・就労支援における作業療法士の役割を学ぶ。

就労移行支援・就労継続支援の見学実習と連動して、具体的な事例について実際の様子を体験学習する。

回数	項 目	内 容
1	職業評価・就労支援における作業療法士の役割を学ぶ。	オリエンテーション、職業関連活動の概要
2		職業関連活動における作業療法
3		統合失調症の就労支援
4		職業評価
5		〃
6		職業評価フィードバック
7	地域で生活する精神障害者の就労支援の実際を学ぶ。	ジョブコーチ①
8		ジョブコーチ②
9		見学オリエンテーション
10		ジョブコーチ③
11	就労継続支援（就労移行支援）の見学・体験実習を通じ、実際の様子を体験する。	就労支援の実際
12		〃
13		見学フィードバック
14		就労支援施設見学レポート発表
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

講義方式を基本とする。

後半には、就労支援施設の見学実習と関連したフィードバックおよび演習を行う。

2020年度 教育計画（作業療法学科）

学 年： 2 科 目 名： 臨床実習セミナー I

担当講師名： OT 教員(齋藤)

単 位： 1 単位 教育時間： 30 時間

教育目標（到達目標）： 作業療法の臨床に関連した内容を確認し、評価実習に向けて準備を行う。

実習後に症例発表を行い、臨床現場での体験について理解を深める。

【講義概要】

領域別作業療法の実習前評価および実習後評価を主とする。

評価実習に関する総合的な確認を行い、学生の習熟度に合わせたフィードバックを行う。

回数	項 目	内 容
1	領域別学習	身体障害領域の作業療法特論および演習
2	領域別学習	身体障害領域の作業療法特論および演習
3	領域別学習	身体障害領域の作業療法特論および演習
4	領域別学習	精神科領域の作業療法特論および演習
5	領域別学習	精神科領域の作業療法特論および演習
6	領域別学習	高齢期領域の作業療法特論および演習
7	実習前評価	領域毎の習熟度・理解状況进行评估する（筆記試験）
8	実習オリエンテーション	総合的なオリエンテーションと、実習前評価の結果を受けての個別指導を行う。
9		
10	実習後評価	実習後ケース発表とフィードバック
11	実習後評価	実習後ケース発表とフィードバック
12	実習後評価	実習後ケース発表とフィードバック
13	実習後評価	実習後ケース発表とフィードバック
14	実習後評価	実習後ケース発表とフィードバック
15	実習後評価	実習後ケース発表とフィードバック

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA（優）、70点以上80点未満をB（良）、60点以上70点未満をC（可）とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

実習前評価と実習後評価を含む。前半の講義後に実習前評価を行い

ケーススタディの発表とフィードバックによって、実習後評価を行う。